社会科学習指導案（地理的分野）　【大分県】

1 題材　　日本の地域構成　「北方領土」

2 指導の立場

日本固有の領土である北方領土は、第二次世界大戦の終戦直後、ソ連軍によって占領され、今なおロシアによる不法占拠が続いている。領土は国家、国民にとって基本的かつ重要な問題であるが、日本は周りを海に囲まれ、地理的、歴史的にも領土または国境を意識することが少なかった。昨今、国際社会に生きる日本人としての資質・能力を育成することが叫ばれている中、北方領土の学習は、領土問題における正しい理解を図り、領土の大切さを認識するとともに国際化の視点を学習させるのに適した教材と言える。

今回の授業を行うにあたり、北方領土についての事前調査を実施し、以下のような実態を得た。

・ 北方領土の4つの島をすべて挙げる（選択制）ことができた生徒	→ 46%
・ 現在の北方領土にはロシア人が住んでいるという事実を知っている生徒	→ 41%
・ 北方領土は日本固有の領土であるということを知っている生徒	→ 64%
・ 日本が北方領土の返還を求めて運動を行っていることを知っている生徒	→ 54%

また、北方領土についてのイメージや知識を問うと、74%の生徒が回答し、領土問題についてふれている生徒が多くみられたが、「ロシア人しかいないし、もう返還を求めなくてもいいのではないか。もし返還されても何かが変わるわけでもない。」という意見も見られ、北方領土問題についての基本的な知識や領土意識に欠ける実態が見られた。

このような生徒たちにとって北方領土がもっと身近な存在となること、つまり北方領土の位置や範囲など地理的事象を理解することはもちろん、ふるさとを奪われた元島民たちの熱い返還への思いなどにふれることが大分県にいながら北方領土との距離を縮めることにつながるのではないかと考えた。そこで、まず「北方領土ってどんなところだろう」と投げかけ、北方領土の位置や島名、豊かな自然や資源などを調べ、理解させたい。そして、納沙布岬での写真を活用し、なぜ「返せ　北方領土」なのかと問い、元島民の思いや願いにふれることから北方領土問題を考えさせ、改めて我が国固有の領土であることを理解させたい。

3 指導計画

第一次　　「北方領土ってどんなところ？」

第二次　　「北方領土問題って？」　　・・・ 本時

4 本時案

＜第二次＞　「北方領土問題って？」

（1）ねらい

○ 「北方領土問題」について、調べたり、元島民の話を聞いたりした内容をもとに考察することを通して、北方領土が我が国固有の領土であることを理解することができるようにする。

(2)展開

学習活動	時	指導上の留意点	備考
1　1枚の写真から読み取れることを出し合う。	5	○ 納沙布岬で撮った1枚の写真を提示し、「返せ 北方領土」という文字を確認させる。 ・ 根室市役所の写真も提示	拡大写真提示
2 なぜ「返せ」なのかを考える。	20	課題 なぜ「北方領土を返せ」と訴えているのか ○ 終戦直後、ソ連軍の占領により住民が島を追われた歴史的事実にふれる(不法占拠)。 ○ 日本は今も返還を訴え続けてきていることをおさえる。○	ワークシート 資料
3 元島民の思いにふれる。	15	元島民の話を聞き、ふるさとへの思い、返還への強い願いから北方領土問題を考えさせる。 ・ 元島民の話	元島民の話(インタビュー集)
4　本時のまとめをする。	10	○ 北方領土は我が国固有の領土であることを確認する。 ○ ロシアによるウクライナ侵攻によって、墓参や自由訪問などこれまで行われてきた四島住民との交流が現在停止していることにもふれる。	
5　振り返りを行う。			

5 ワークシート(簡略版)

「北方領土」学習　ワークシート

1 何と書かれてありますか。

(　　)

2 「返せ」とはどういう意味ですか。

(　　)

3 元島民の話を聞いて思ったこと、考えたことを書きなさい。

(　　)

5 成果と課題

・ 北方領土問題を解決していくには、生徒たちが「関心を持つ」こと、「正しく理解する」ことが何より大事であると改めて感じた。

・ 生徒の振り返りに「北方領土のことが以前よりわかったし、何が問題なのかも返還を求めている元島民のお話から理解できた」とあるように、元島民インタビューの視聴が効果的だった。

・ 今後、歴史的な事実・背景を学び、問題解決に向け様々な立場から考えていくことが必要である。